

令和7年2月3日

大山町議会議長 米 本 隆 記 様

大山町議会議員 吉原 美智恵

令和6年度 第3回市町村長等・議会議員特別セミナー報告書

1	日 時	令和7年 1月20日（月）～1月21日（火） 2日間コース	
2	研 修 地	滋賀県大津市 全国市町村国際文化研修所 JIAM	
3	研修内容	（ 内 容 ）	（ 講 師 ）
		(1) アート×福祉	日比野 克彦
		(2) 安心して認知症になれる社会を目指して	堀田 聡子
		(3) 誰もが誰かの応援者	野々村 光子
		(4) 人と人・人と自然をつなぐ資金環境の仕組み	山口 美知子
4	研修結果 又は概要 (意見・ 感想)	講義1 アート×福祉 東京藝術大学 学長 日比野 克彦 (1) 内容 東京藝術大学のミッション ○心豊かな活力ある社会の形成にとって芸術の持つ重要性への理解を促す ○市民が芸術に親しむ機会の創出に努め、芸術をもって社会に貢献する (2) 基本方針 ○アートによる、又はアートと異分野との融合による、社会的課題の解決に係る教育研究、社会実装を全学的に推進する ○一人ひとりの「こころの豊かさ」 Well・being の実現に寄与・貢献する	
		講義2 安心して認知症になれる社会を目指して 慶応義塾大学 教授 堀田 聡子 ○一人ひとりのマイクロハピネスをみんなのウェルビーイングに。 ○共生社会の実現を推進するための認知症基本法 (1) 内容 ○認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性をだが、尊重しつつ、支え合いながら共生する活力ある社会の実現を推進するということ (2) 基本理念 ○全ての認知症の人が基本的人権を享有する個人として、自らの意志によって日常生活及び社会生活を営むことができるようにすること	

		○新しい認知症観として、正しい知識及び正しい理解を深めることができるようにすること ○認知症に人が社会の対等な構成員として、自己に直接関係する事項に関して意見を表明する機会及び参画する機会の確保を通じるようにすること 以上、新しい認知症観に立った社会をつくり出していくことが共生社会の重要な要件となっている
4	調査結果 又は概要 (意見・感想)	講義 3 誰もが誰かの応援者 社会福祉法人わたむきの里 福祉会理事 野々村 光子 ○働く人の思いが重なって大きな大きな力になる 「社長が応援団長になる地域づくり」 長年、不登校であったり、引きこもり生活が続けていた人たちの「働きたい」を引き出し、社長の理解を得て「働くこと」が持つ力の大きさに驚き、学ぶ ○障がい者就職応援センター事業 障がいの種類によって得意、不得意なことがあり、特性を生かす仕事を見つけることが大事である ・ ○Team 困救 時代の流れと共に、地域の「困りごと」は見えづらく、いつの間にか「諦めごと」になり始めている。誰が困っても解決できる地域へ、困りごとを救うチームである 講義 4 人と人・人と自然をつなぐ資金環境の仕組み 公益財団法人東近江三方よし基金 常務理事 山口 美知子 ○公益財団法人東近江三方よし基金 地域内での資金循環の仕組みを作るための「市民コミュニティ財団」として設立 地域からの寄附、休眠預金を活用した助成事業、ソーシャルインバウンドボンド（SIB）を活用した資金支援を通じて東近江市における社会課題解決の事業者を支援している ○資金環境におけるベースの考え方 ①地域資源を活用して魅力向上 歴史遺産の磨き上げ 地域の人材の磨き上げ インフラの有効活用 ②地域資源を再評価し補充・再生 森林、河川の保全・再生

		生活弱者対応と地域共生の仕組みづくり ③ソーシャルキャピタルの醸成 市民意識変化による社会変革 セフティーネットの構築
		総括 全ての講義が人にやさしい共生社会への実現を推進する地域づくりへと繋がるものであった 全ての人が、その人らしく働き暮らせることを大切にし、社会課題解決に向けて行動していくことが重要であると実感した